親と子
(20240810)

まずは親の役割

次世代をつくる、保護して育てる

親といったら母親のこと

親は子供にとって唯一の存在

食べさせる

心と体を育てる

親→自分が超えることが不可能

愛するという役割

社会に子どもをお返しする→預かっているもの

子どもとともに育つもの

自分の生き方を見せること

父親と母親の思いの違い

母→子どもは自分と一体

荷物のように保育園に預けて仕事に行った

父親にはこの子が自分の子か確証はもてない

病院のベッドで看護師さんが赤ちゃんを連れて来た時

とてもうれしい

いつから親になるか

父→しゃべったとき子と意識

何も教えられていない子供が自分のところに来た時

同時に不安、この子を育てられるのかという

お腹の中にできたとき→受胎したとき→減数分裂開始

10月10日、羊水の中で進化成長→母なる海→海なる母

個体発生は系統発生を繰り返す

分娩→個体発生→海から陸へ→命がけ

子どもは友達のようなもの、別の人格、個体

生むより育てる方がもっと大変

女の生理を全うしたということ

共同体の関係が希薄になり、家族という閉じた箱の中での苦闘

育てるのが難しい

祖母や近所との関係→助かった

昔の親の神社へのお願い→役に立つ、迷惑をかけない → 今は幸せになりますように→個人ごと → 出発点→子どもが親の所有物

母子依存ということ

会社を辞める場合でも本人でなく母親が出てくる

その代行業者まで出てきた

子どもを自分の持ち物のように思っている

子離れができない親

自立できない子ども

生きる手本を見せるのが親

子どもは言うことをきかない、反抗する

親以外の他人、社会から学ぶことの方が多い

親自体が初めて親をやっている→間違える→試行錯誤の連続

嫁に行くと違ったものになる

結婚すると違ったものになる

子どもは社会からの預かりもの

親はいつまでも親

子どもはいつまでも子か、親を超えていくものか

自分たちの人生を生きて行ければよい

親は必要があれば手助けをする

親の言うことで記憶に残ったことは何？

生まれてきてくれてありがとう、子育てができた

大谷さん、藤井さんのような子、中野の殺人事件のような子になる落差

素質、DNA？

親の責任がすべてではない

お母さんの許可をもらわないとできない

親が評価をもらいたい

地域の閉鎖的環境、個人の素因

ある面で評価をもらっても長い目で見てどうなるかわからない

自分の考えで行動できない

禍福は糾える縄の如し

夫が借金をした→結婚のとき反対した両親が二人で頑張って乗り越えるよう

学歴が過熱→教育ママ

親孝行のつもりで勉強

もっとやるべきことがあったのに、人生で学ぶべきことを

子ども3人を東大医学部に入れたとか

放任か過干渉

授業についていけない子どもの親

親ができない、片親とか

社会が支えてゆく必要性

明治の教育、江戸時代の寺子屋

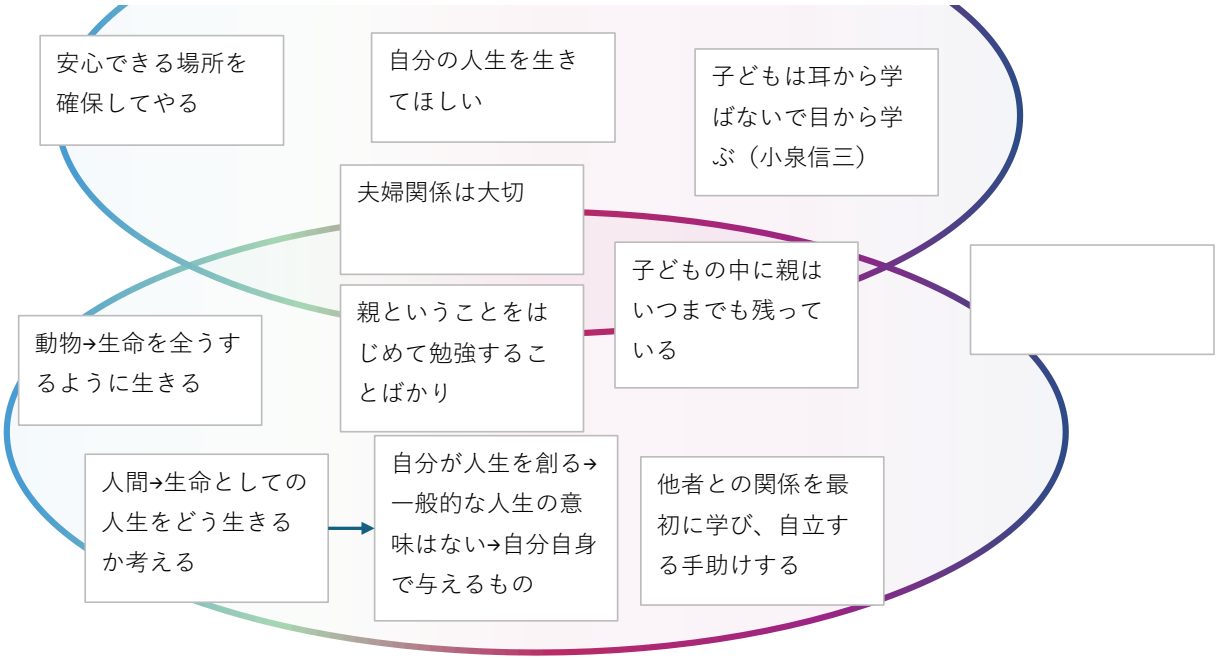
あの人ならわかってくれるという人がだれかいないと成長していかない

親が何でもできるとは限らない→反面教師ということもある

お互いの試行錯誤の過程の中で人生を学ぶ

親である必要はない

社会が子供を育てる


安心できる場所を確保してやる
自分の人生を生きてほしい
子どもは耳から学ばないで目から学ぶ（小泉信三）
夫婦関係は大切
子どもの中に親はいつまでも残っている
動物→生命を全うするように生きる
親ということをはじめて勉強することばかり
人間→生命としての人生をどう生きるか考える
自分が人生を創る→一般的な人生の意味はない→自分自身で与えるもの
他者との関係を最初に学び、自立する手助けする